

岡山県
Okayama Prefecture

プロジェクト「KIZUKI」キックオフフォーラム
ワークショップ

児童生徒の声に基づく 魅力ある学校づくり

～RV-PDCAによる改善サイクルについて～

令和8年5月21日（木）

© Norihisa TAKAHASHI Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

1

どこが気になる？

アンケート：授業がよく分かる

回答	割合
① 強肯定	21%
② 肯定	58%
③ 否定	15%
④ 強否定	6%

①強肯定：当てはまる（21%）
②肯定：どちらかといえば当てはまる（58%）
③否定：どちらかといえば当てはまらない（15%）
④強否定：当てはまらない（6%）

© Norihisa TAKAHASHI Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

2

数値は「実態」ではなく、「指導のアウトプット」

【実態主義】

児童生徒 → データ

考え方：データは「児童生徒の状態」を表す

✗ 「あの子は〇〇だから～」とアプローチを放棄してしまう危険

【構築主義】

教師の「指導」（インプット） → データ（アウトプット）

考え方：データを改善させるには、インプットである「指導」を改善するしかない

○ データは児童生徒を主語にした「我々の実践を振り返る鏡」

「あの子は～」 「あの家庭は～」という言葉を手放し
自らの「手立て」にフォーカスする

北澤 毅 (2025) 『「教育問題」はつくりされる 構築主義的な読み方・解き方』 時事通信社をもとに作成

© Norihisa TAKAHASHI Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

3

「安心の80%」を捨て、「強肯定」のみに刮目する

アンケート：授業がよく分かる

よく見るグラフ

解像度を上げたグラフ

肯定的回答 (80%)

強肯定 (21%)

【ワーク①：Research】隣席対話／チャット（3分）

「強肯定」のみに着目した時、
皆さんの意識や組織のエネルギーはどう変わるでしょう？

© Norihisa TAKAHASHI Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

4

その「目標」に根拠はあるか？（フルマラソンを例に）

【希望値のルート】
(よくある目標設定)

FINISH
目標タイムを先に設定(例:4時間)

練習メニューを当てはめる

⚠ 未達時の結末

❌ 「目標を5時間に下げよう」
(目標の下方修正・思考停止)

【見積り値のルート】
(根拠に基づく目標設定)

具体的な手立ての
ブロックを積み上げる
(練習メニューの設計)

結果として予測値を算出
(例:これなら4時間いける)

⚠ 未達時の結末

○ 「メニューを改善しよう」
(手立ての改善へ向かう)

目標数値の設定が先ではない。「具体的な手立ての立案」から
目標数値（見積り値）を導く順序こそが、改善のスタートになる

© Norihisa TAKAHASHI, Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

5

「発達支持的な手立て」から、徹底後の「見積り値」へ

発達支持的な手立て × 徹底度 = 強肯定の予測値 (見積り値)

例：毎時間、授業の最後に
「わからなかったことを一緒に
振り返る時間」を確保する

全学年・全教科で
足並みを揃えて実行

「授業がよくわかる」
の強肯定が+10%上昇

© Norihisa TAKAHASHI, Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

6

「発達支持的な手立て」から、徹底後の「見積り値」へ

発達支持的な手立ての例

- 1. 「わからない」を共有・価値付ける手立て**
 - 授業の最後に「今日よくわからなかったところ、不安なところはない？」と問いかけ、共有する。
 - 出された「わからない」を一覧化し、「ここが不明という人が多かったから、次はここから始めよう」と、児童生徒の声を起点に授業を構成する。
- 2. 心理的安全性（安全・安心）を高める手立て**
 - 授業の最初に、本時の到達点（めあて・学習課題・ルーブリック）と学習の流れを明示し、児童生徒に見通しをもたせる。
 - 指名の際、発表順をあらかじめ示したり、答えられない場合に「パス」することを認めたりして、心理的負担を軽減する。
- 3. 自己決定の場を意図的に設定する手立て**
 - 児童生徒が自ら課題を設定したり、解決方法（一人でやるか、グループでやるか等）を選択したりできる工夫を導入する。
 - 複数の解釈や対立意見が生まれるような課題を設定し、自ら考えたいくなる仕掛けをつくる。
- 4. 共感的な人間関係（学び合い）を紡ぐ手立て**
 - 「こういう考えもあるけど、〇〇さんはどう思う？」「△△さんと□□さんの考えの共通点はどこかな？」と、児童生徒同士の思考を繋ぐような発問をする。
 - 1人1台端末を活用し、他者の取組や思考プロセスをリアルタイムで参照・比較できるようにする。
- 5. 自己存在感を高める手立て**
 - 児童生徒のふとした疑問や興味関心（つぶやき）を拾い上げ、そこから授業を展開する。
 - ICTを活用し、少数意見も含めて全員の意見を可視化し、採り上げる。
 - 単に「すごいね」という評価ではなく、「自分の言葉で伝えようとしたね」「準備を手伝ってくれて助かったよ」など、プロセスや貢献に対する事実を具体的に認める。

© Norihisa TAKAHASHI, Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

7

実測値が見積り値を下回った際の「省察」→改善

希望値 (実態主義) 【ギャップの発生】
実測値 < 見積り値 見積り値 (構築主義)

「今年の子どもは～だから」

「手立てがミスマッチだった」
「組織として徹底できなかった」

❌ 実践の進化が止まる

○ アクション【手立ての改善へ】

見積りが外れた（実測値が低い）ことは「失敗」ではなく、
検証・改善のための「貴重なデータ」の獲得

© Norihisa TAKAHASHI, Okayama Prefecture Board of Education, Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

8

職員室での「構築主義的」な対話が重要

「先生、12月のアンケート結果、見積り値に届かなかったんです…」

【ワーク②：Check+Action】ロールプレイ/チャット（3分）

実測値が未達だった時、あなたなら同僚にどのような「構築主義的な声かけ」をしますか？

ヒント

- 「どの手立てが子どもにマッチしなかったのかな？」
- 「やり方に無理があったのかもかもしれないね」
- 「全員で徹底するには、どうしたらいいと思う？」

など

×「そもそも目標が高すぎたんじゃない？」

×「3学期は目標値を下げてみたら？」

×「あのクラスならしかたがないと思うよ」

© Norihisa TAKAHASHI / Okayama Prefecture Board of Education / Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

9

「児童生徒を主語にした学校改善」のエンジン

➤ 「強肯定」に着目し、「見積り値」で手立てを検証し続ける

➤ 教師の専門性を最大限に生かし、「誰もが通いたくなる魅力ある学校」をデザインするためのエンジン

© Norihisa TAKAHASHI / Okayama Prefecture Board of Education / Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

10

もう少し知りたい方は…

生徒指導Leaflet（リーフ）@OKAYAMA Vol.14~16

「子どもの声」に基づくRV-PDCAのスム①

改善の立案→見積り値、設定の明確で

<https://www.pref.okayama.jp/page/983308.html>

© Norihisa TAKAHASHI / Okayama Prefecture Board of Education / Human Rights Education and Student Guidance & Counseling Division

11